研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
平成27年11月16日発行　　No.72

「研修便り」は，高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有，研究所から発信する情報の周知を目的として，発行していきます。

平成27年度　キャリア教育研修会

平成27年10月9日(金)実施
対象：高知市立小・中・特別支援学校教職員

概要　小・中・高等学校及び特別支援学校におけるキャリア教育を充実させるための方策やキャリア教育の視点でとらえた各教科等の授業を検討することにより，各校種間の連携や教育活動全体を通じて行うキャリア教育を効果的に推進するための方策について協議等を行い，キャリア教育の充実を図る。

講義・演習「学校におけるそれぞれの教育活動を『つなぐ』キャリア教育」　筑波大学　藤田晃之　教授

○ キャリア教育とは何か　ー変容を踏まえてー

（課題）・　キャリア教育に対する教員の受け止め方，実践の内容・水準にばらつきがある
・　キャリア教育のとらえ方が変容してきた経緯を十分に理解していない

「この社会でちゃんとやっていく力」の育成が重要

一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育
（中央教育審議会答申　平成23年1月31日）

- それぞれの学校の教育活動全体を通して実践
- 学校教育の中にあるキャリア教育の「断片（＝宝）」を見出して実践することが大切
  （例）運動会で上級生として役割を担い，チームとして課題を遂行する機会
- 「断片」を相互につなぐのは，教師の役割

○ キャリア教育で育成すべき力

キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力
コミュニケーション・スキル
チームワーク
個性を理解する力

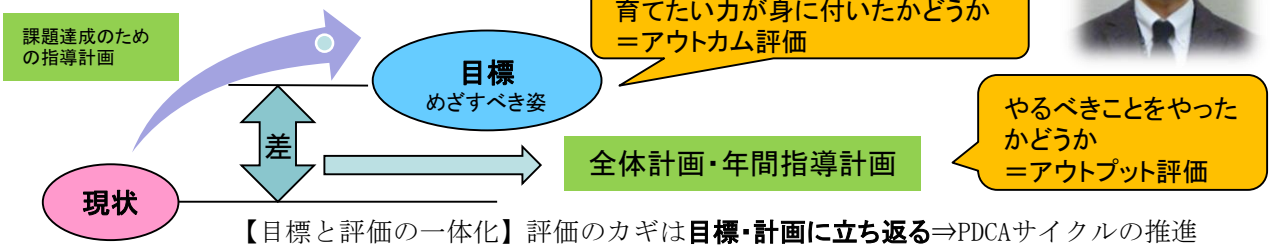
自己理解・自己管理能力
前向きに考える力・忍耐力
自己の動機付け・主体的行動

課題対応能力
情報の理解・選択・処理・実行力
原因の追及・課題発見・計画立案

キャリアプランニング能力
学ぶこと・働くことの意義や役割の理解
多様性の理解，将来設計・選択

基礎的・汎用的能力は，相互に関連・依存した関係にあり，すべての者が均一に身に付けることを求めるものではない。
四つの力を参考にしつつ，学校や地域の特色，子どもの発達段階等を踏まえて，具体の能力を設定し，工夫された教育を通じて達成されることが望まれる。

○ キャリア教育の評価



【目標と評価の一体化】評価のカギは**目標・計画に立ち返る**⇒PDCAサイクルの推進

○ キャリア教育の力で学びを変える　～さまざまな教育活動を通して実践～

【現在の学び】
入試・入社試験に向けての学び
「こんな勉強意味がない　どうせ使わない…」

⇒

【めざす学び】〇〇の時に△△できる
「今学んでいることは，社会にも，将来にもつながっているんだ！」
★　社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる力

【受講者の感想】
本校のキャリア教育の年間計画を改めて見直してみると，子どもたちの実態把握がきちんとできていないことや，各教科との関連が分かりにくいなど課題が見えてきた。まずは，実態をつかみ，めざすゴールに向かってどのような手立てを打っていくのか考えていきたい。そして，子どもたちに学ぶ意義・取り組む意義をもっと伝えたいと思った。

平成27年度　第2回授業改革実践研修会

日時：平成27年10月9日（金）実施

目的
- 魅力ある「分かる授業」を創るため，授業力の向上を図る。
- 通常の学級においての授業における特別な支援を必要とする児童生徒への指導の在り方を学ぶ

研修Ⅰ【公開授業】「かがやけ命　～紫雲丸遭難事故に学ぶ～」

授業者：長浜小学校　池田　勝　教諭

〔本時のねらい〕　同級生や親の思いに共感し，命の大切さについて考える。
〔特別な支援を必要とする児童への手立て〕
　全体に指示をしたあと，支援の必要な児童のそばに行き，声がけをする。また，隣の児童が支援をしてくれているときは，見守るようにし「ありがとう」の声をかけ，支援してくれるクラスの仲間を増やす。

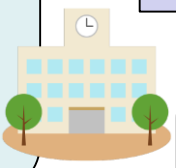
研修Ⅱ【講評・講話】　「授業における特別な支援を要する児童生徒への指導の在り方」

講師：プール学院大学　松久　眞実　准教授

特別支援教育のハード面・ソフト面

○　ハード面
- 視覚支援
- スケジュールの提示
- 教室の構造化

○　ソフト面
- 教師を信頼・尊敬しているか
- 分かりやすい指示の出し方
- 褒め方・叱り方



年齢が上がるにつれ，ソフト面の充実が必要

- まずは，秩序のあるクラスづくり
- 次に，**授業改善**

- 毎日の授業は「フランス料理」ではなく「家庭料理」，奇をてらった授業ではない。この毎日の授業をいかに改善するか，発達障害のある子どもたちへの視点をいかに入れていくか。
- 「つかみ」は大切だが，いかに興奮させないかが大事。クールダウンの時間をつくるなどテンションを下げる工夫をする。
- 飽きてくる授業の半ばで「はっ」とする活動（ふりかけ）を入れる。
  → かくす，じらす，パッと見せる，ひらひら，部分的に消す，クイズ，ペア活動など

「なるべく小さな労力で大きな効果を生むことをやろう！」
例えば，「音は音をよぶ！」ので
しゃべり方や叱り方を工夫する。

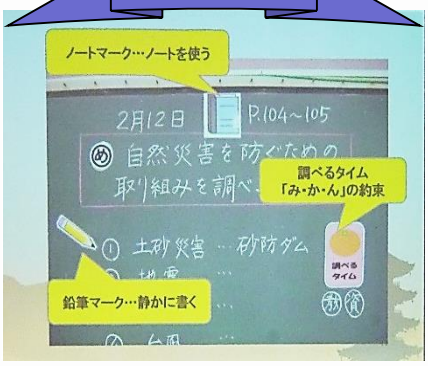
特別な支援を要する児童生徒への指導のポイント

○　静寂の時間
- 教室の音を減らす（指示の掲示物を必要に応じて作成）
- 注意は大声でしない
- 机間指導も静かに行う（アイコンタクト・ジェスチャーを使う）
- 「おだまりモード」と「ひそひそモード」を提示する

○　視覚支援
- 全てカードにする必要はない（何回も使用するもの，言葉を減らすためのものをつくる）
- 100回説明するより，視覚支援が有効
- 写真でモデルを示す（掃除道具入れやノートの開き方の理想の状態を写真撮影し，掲示する）

○　言葉を減らす・声のトーン
- 同じトーン（一本調子）だと聞き逃す
- 声を潜めた方が聞こうとする
- セリフのなかに間があると響いてくる
- 「好意に満ちた語りかけ」を意識する
- 「…ありがとう」のＩメッセージには反抗しにくい
- 授業にメリハリをつける（聞くこと・読むこと・書くこと・話すことをおりまぜる）

掲示物の例



【受講者の感想】
- 特別支援教育を成功させるうえで大切なことは，「教師の落ち着いた口調」や「視覚的な支援」，「作業の前にルールを説明しておくこと」などを実践し続けることだと感じた。特性のある子どもが安心し，互いに考えや思いを交流することのできる居場所づくりに努め，教師自身も刺激になりすぎないように心がけたい。
- 音が音を呼ぶということが印象的だった。自分自身の声のトーンについても見直し，子どもへの好意に満ちた声かけやボイスシャワーを今まで以上に実践していきたいと思った。
- 叱り方と褒め方のコツを学ぶことができた。日々の授業は「フランス料理」ではなく「家庭料理」であるべきで，子どもたちの心がちょっとでも動く「ふりかけ」（ひと工夫）があれば授業が変わると感じた。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所　教職員研修班までお寄せください。